

## ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウの発生に注意してください

ハスモンヨトウ（図1）とシロイチモジヨトウ（図2）のフェロモントラップによる誘殺数が平年より早い時期から増加しており、地点によっては4月の平年値を大きく上回っています。今後、野菜類や花き類で幼虫被害の早期発生が懸念されますので、防除対策を徹底してください。



図1 ハスモンヨトウ（左：卵塊、右：幼虫）



図2 シロイチモジヨトウ（左：卵塊、右：幼虫）

1. 対象地域：県内全域
2. 発生時期：5～11月
3. 対象作物：野菜・花き類
4. 発生状況
  - 1) フェロモントラップによる4月の雄成虫誘殺数が、平年を大きく上回っています（図3）。
  - 2) 大阪管区気象台の発表によると、近畿地方の向こう1か月（4月25日～5月24日）の平均気温は高く推移すると予想されており、幼虫による被害が多発する可能性があります。
5. 防除対策
  - 1) ハスモンヨトウやシロイチモジヨトウは広食性で、畑作物、野菜、花き等、多くの作物を加害するため、ほ場をよく見回り、早期発見に努めてください。シロイチモジヨトウの幼虫は作物の芯部に潜り込む性質があります。
  - 2) 卵塊や分散前の幼虫は、見つけしだい捕殺してください。
  - 3) 幼虫が中～老齢になると薬剤の防除効果が低下するので、若齢幼虫期の防除を徹底してください。
  - 4) 薬剤散布だけでなく、物理的防除（黄色防蛾灯、防虫ネット被覆）や性フェロモン剤による交信攪乱法など、複数の方法を組み合わせた総合的な防除が有効です。
  - 5) ハスモンヨトウについては、一部個体群では合成ピレスロイド剤、BT剤、ジアミド剤、プレオフロアブルに対して感受性低下が認められています（令和7年度防除技術情報第8号）。また、シロイチモジヨトウについても、合成ピレスロイド剤、ジアミド剤等に対して感受性の低下が認められています。ほ場内でハスモンヨトウやシロイチモジヨトウの発生が確認された際は、これらの薬剤の使用を控えるか、散布後の効果をよく確認してください。また、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤の連用を避けてください。
  - 6) 薬剤については、最新の登録情報（農林水産省農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>）を参照し、適正に使用してください。

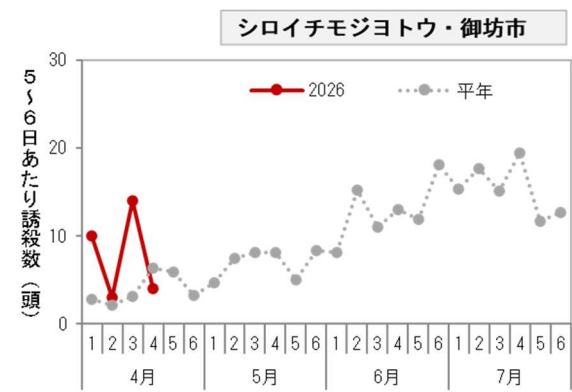
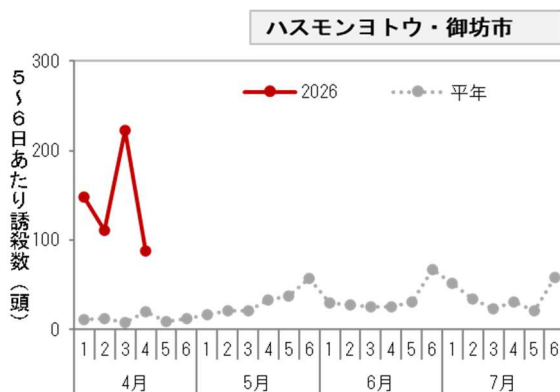
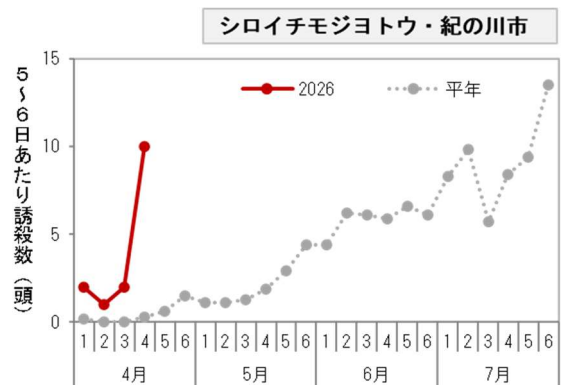
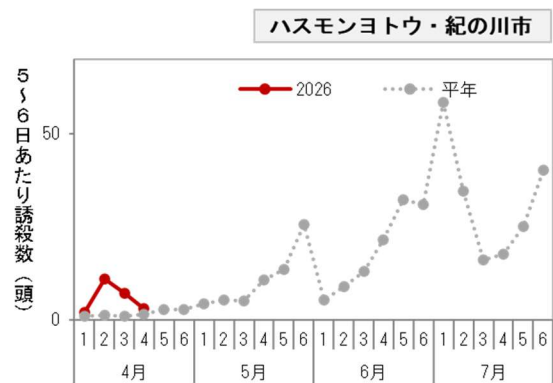
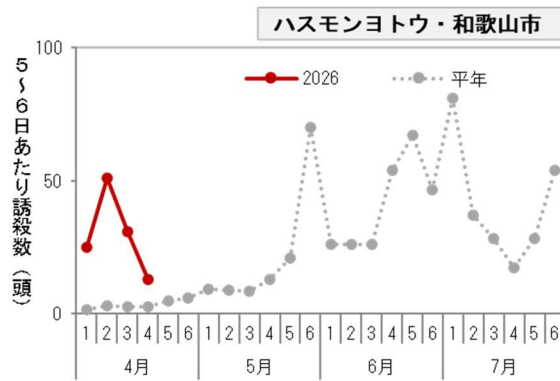


図3 フェロモントラップによるハスモンヨトウ及びシロイチモジヨトウ誘殺数の推移  
 ※図の横軸の数字は半旬（1：1～5日、2：6～10日、3：11～15日、4：16～20日、5：21～25日、6：26～30または31日）を示す。

和歌山県農作物病害虫防除所  
 電話：0736(64)2300